



新型インフルエンザから学んだ事

今年のインフルエンザ対応

昨年の10月頃からは新型インフルエンザワクチンをめぐって大変な騒ぎをしていました。特に病院では優先的にワクチンをうつべき患者様の選定に苦慮し、さまざまな問題への対応で常に電話が鳴り響いていました。しかしこの騒ぎも新型インフルエンザの病原性が従来型とさほど変わらない事がわかるにつれて落ち着いてきました。今年の対応はどうあるべきか一緒に考えてみましょう。

佐久総合病院 救命救急センター (☎0267-82-3131) 岡田 邦彦 医師

新型インフルエンザを振り返ると

2009年3月半ばからメキシコにおいてかなり死亡率の高いインフルエンザ様の病気がはやっており、アメリカでも豚インフルエンザウイルスの患者が報告されているという情報がWHOから日本に入ってきたのは4月25日頃でした。これを受けて日本では直ちに空港等での水際作戦を開始しましたが、5月16日には国内初の患者が発生しました。その後は患者の10日あまりの入院治療や隔離、学校の休校、イベントの中止等で地域医療生活は大きな混乱に落ち入りました。6月半ばには県内初の患者発生。7月半ばには佐久地域でも患者が見られるようになりました。世界的にも6月12日にはフェーズ6(いわゆる大流行期)が宣言されました。わずか2ヶ月足らずで全世界に広がったのです。その流行の速さ、感染力には驚かされてしまいました。反面、その病原性はさほどではなく従来のものと変わらないようなのだという事がしだいにわかってきました。診察や入院はしだいに緩やかなものになり、10月頃からは医療機関は重症な患者対応以外は従来と変わらないものとなりました。また、地域や職場では感染防止につとめるような呼びかけが盛んに行われました。

ここで大きな混乱を生んだのが新型インフルエンザワクチン接種でした。国内産だけでは不足するため、誰でも接種というわけにはいかず、優先度をつけざるをえませんでした。その後数ヶ月間、医療機関はその対応で混乱を極めました。しかしこれも2010年の年が明けてからは接種希望も減り、結果として多くのワクチンが余ってしまいました。そして2010年2月の終わりにはほぼ流行がおさまったのです。

流行の実態はどうだったのか

2009年度には日本国内で2000万人以上が感染したと考えられています。高年齢層に少なく、若年層に多く感染しました。こ

の辺が従来のインフルエンザとは大きく違った所です。全国で170000〜180000人が入院(感染した10000人に1人が入院、5〜9歳が最も多かった)、約200人が死亡(感染した10万人に1人が死亡)しました。死亡率は0〜4歳、5〜9歳、70歳以上、40〜49歳の順に高いものでした。この死亡率は従来のインフルエンザよりも高いものではありませんでした。

結局これまでにわかった事は、感染力は従来のインフルエンザ並みに非常に強かったが、病原性は低く、いわゆる死亡率等は従来のインフルエンザほどではなかったということです。また、5〜14歳を中心とした若年層に多く感染を引き起こした事も特記すべき事です。

新型インフルエンザ対応から学んだ事

元来、国が押し進めていたインフルエンザ対策はH5N1インフルエンザなどの強毒性の場合のものでした。今回の新型インフルエンザは実際には低毒性で、国も時間とともに柔軟な対応に変えていきました。今後も病原性を見極めながらの柔軟な対応が望まれます。

インフルエンザと言う見えないウイルス感染症。感染しても潜伏期と言って1〜2日は熱は出ない、感染は咳などによる(咳が飛び散る周り1m程がうつる可能性がある)、人の移動が極めてグローバルなことを考えると完全に防ぐ事は極めて難しいことです。もちろん最初は封じ込めが重要ですが、何よりも封じ込められなかった後の感染の拡大防止、そして被害軽減につとめることが大切です。

そのために我々ができることは「咳エチケット」そして「手洗い」です。咳・く

しゃみをする時はほかの人から顔をそらせて、ティッシュ(なければ服のそでやハンカチ等)などで鼻や口を覆う。その手はよく水で洗う。咳やくしゃみが出るときはマスクをすることです。機会あるごとに手洗いは行ってください。

今年のインフルエンザワクチンは?

今年のインフルエンザワクチンは新型インフルエンザ(A/H1N1)と季節性インフルエンザ(A/H3N2とB型)に効果のある3価ワクチンです。これにより、もしインフルエンザにかかっても軽くすむ事が期待できます。特に幼稚園から高校生くらいまでの若年者、65歳以上の高齢者、妊婦さん等の積極的な接種が望まれます。

最後に対策のまとめ

咳エチケット、手洗い、ワクチン接種、流行が始まったら外出は控える。そしてもしかかってしまったら、十分な休養をとることです。インフルエンザにかからないことも大切ですが、周りに広げない事も大切です。

